

自然環境に関する各国調査事例

国	特徴	事例	対象	概要	成果物
イギリス	<ul style="list-style-type: none"> わが国の動物分布調査に類似。 全国レベルで動植物の分布情報を 10km メッシュデータ化している。 多くの種について、長期間継続して同一規格の情報を蓄積している。 	国立生物記録センター (BRC) による情報収集管理	鳥類以外の動植物種の分布など	ボランティアや生物学者等によりイギリス及びアイルランドに分布する動植物の調査を実施し、収集した情報を集計・解析している。データベース化した情報は National Biodiversity Network (NBN) において公開	<ul style="list-style-type: none"> 分布図 (10km メッシュ) データベース (NBN) アトラス、レッドデータブック等の出版物
		British Trust for Ornithology (BTO) 等の NGO による鳥類の繁殖分布調査	鳥類の繁殖分布	BTQ、Scottish Ornithologist's Club、Irish Wildbird Conservancy の協力により、イギリス及びアイルランドにおける全繁殖鳥類の分布を定期的に調査。各 NGO メンバーなどのボランティア観察者や専門家により収集された情報は、地域 国のコーディネーターのチェックを経て、BTO により集計されている。	<ul style="list-style-type: none"> 出版物 "The New Atlas of Breeding Birds in Britain and Ireland: 1988-1991" 分布図 (10km メッシュ) 分布密度図 分布変化図
ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> 1/50000 の植生図が全国的に整備されている。現在は、凡例管理を連邦が、情報収集や更新は州が行っている。 環境行政は基本的に州の権限。州政府は、生物の生息地を保護の対象として重視し、ピオトープ図とそのリストの形で情報を整理している。 植生図やピオトープ図はアセス、景域計画など州や自治体の政策に利用されている。 	バイエルン州のピオトープ図化プロジェクト	植生土地利用など	74 年～77 年に 1/50000 のスケールでピオトープ図化が実施されたが、行政需要に対応して 85 年から 1/5000 の図化プロジェクトを実施。州環境保護局が中心となって自治体、専門家を動員して調査・図化を行った。州全体にわたって航空写真などを利用してピオトープを図化し、固有の番号を割り当てた上で植生に応じて分類、市町村では無料で閲覧が可能。州政府では手数料をとって配布している。	バイエルン州全域にわたる 1/5000 のピオトープ図 (98 年までに 13,500 枚)
アメリカ合衆国	<ul style="list-style-type: none"> 連邦では国全体として重要な地域や種についての調査、データベースの整備をしている。 各州も主体的に生物情報を収集している。 各州をネットワーク化して生物情報を統合する試みが環境 NGO によって実現している。 多様な主体が個別に情報を持っているが、その分情報の共有が強く意識されている。 	連邦内務省地質調査局 (USGS) の Biological Resources Division (BRD) による情報収集管理	動植物種の分布 植生分布 土地利用など	連邦全体の動植物目録及び調査の標準手順、全土にわたる土地利用の変遷等の情報を整備。国立公園などの連邦として重要な地域については、動植物分布、植生の情報を収集し、データベース化している。また外来水生生物、渡り鳥、繁殖鳥類などの特定の種の調査を実施している。データベース化した情報は国家生物情報機構 (NBII) において公開	<ul style="list-style-type: none"> 分布図など データベース (NBII) USGS 報告書 "Status and Trends of the Nation's Biological Resources"
		National Heritage Network (NHN) による情報収集管理	動植物種の分布 植生分布など	有力な NGO である TNC が設立した動植物調査機関のネットワーク。米加中南米の 85 機関 (州政府部局や大学) が Conservation Data Center (CDC) として参加。CDC が有する各州・地域のデータベースを一元的に公開。またそれらの既存情報を統合し、データベース (Nature Serve) において、米加両国の 5 万種の動植物について生態、保護レベル、位置情報などを公開。	<ul style="list-style-type: none"> 各 CDC のデータベース データベース (Nature Serve)
コスタリカ	<ul style="list-style-type: none"> 生物標本の収集・管理が中心。 住民を研修・養成して、各地域で調査・採集させる独特な体制。 	国立のコスタリカ生物多様性研究所 (INBio) による情報収集管理	動植物種の分布	分類学者の協力のもと、地域住民を分類補助員 (パラタクソミスト) として研修・養成。各地域で副業的に調査を実施し、生物標本を収集。最終的には国内 50 万種の生物目録の完成を目指す。情報はデータベース化。	<ul style="list-style-type: none"> 分布図 (1km メッシュ) 生物目録 標本 データベース

